

育苗後期～定植までの管理について

JA今金町 農業経営課
北海道糖業(株) 道南製糖所 原料課

1. 育苗管理

- (1) 育苗後期は苗が乾き過ぎないように灌水する（過乾燥になると苗枯病や紙筒分離不良の要因、過湿になると苗の徒長、斑点細菌病発生の助長となるので注意する）。
※ペーパーポット分離障害を防ぐために育苗期間を通じ、ポットが乾燥しないように気を付けましょう。
- (2) 苗は定植7～10日前頃より
- ①苗を外に出す
 - ②ハウスのビニールをはく等の手段で外気に十分に慣らしてください（ハードニング）。
（ハードニング中に苗が凍結した場合、シート等で日陰を作り自然乾燥させる）
また、リボルタは抽苔軽減のため、苗を外に出してのハードニングは控えてください。
- (3) 斑点細菌病の発生が見られたら、下記の通り早急に防除を実施してください。
本年は本病の発生が目立っております。

<1ha（60冊）当り>

薬 剤 名	散布方法	倍率	薬量	水量	総使用回数	備 考
加シホ ルド-又は カパ-ツ水剤	噴霧器使用	800倍	3.75g	3ℓ	5回 ※圃場使用含む	散布水量：50ml/1冊

2. 定植前の苗床灌水

灌水は定植3日前から（全自動移植機の場合は4日前）20～30ℓ/冊の灌水を数回に分けて（時間をかけて）実施後、定植前日か直前に下記の要領で薬剤処理を実施してください。

<10a（6冊）当り>

	適 用	薬 剤	薬量	倍率	水量	備 考
定植 前日	殺虫剤 (選択)	ダントツ水溶剤	30g	200倍	6ℓ	いずれか1剤を使用し て下さい
		アクタラ顆粒水溶剤	60g	100倍		
	根腐病	モンセレン顆粒水剤	30g	200倍		
	弁当肥え	北糖 液肥	170ml	35倍		

注1) 灌水後は必ず、6冊当り1ℓの水で水洗いする（薬害防止）。

注2) 薬剤使用の際は必ず散布器具を十分に洗浄してください。

3. 定植時の注意点

- (1) 苗の鎮圧は活着を早めるため実施する。
- (2) 定植は風害予防のため浅植えにしない。
- (3) 定植予定日の翌日に低温（最低気温が－5度以下）が予想される時は、定植を中止する。

4. 排水対策

生育初期の湿害は、著しい生育停滞を招きます。

明渠・暗渠の点検及びブラソイラの施行、又、定植後速やかに畦間サブソイラまたは深耕カルチを実施してください。